

## 堆肥センターの有効活用について



浅沼 幸雄 議員

**【質問】** 農作物を育てる要素の1つに栄養分があり、一般的には肥料がその役目を担っている。肥料には大きく分けて有機質肥料(堆肥)と無機質肥料(化学肥料)があるが、昨今の化学肥料価格の高騰により農業経営を圧迫している。その対策の一環として堆肥センターの堆肥を最大限に活用し、加えて

土壤診断を実施し、安価で効果的な施肥方法の検討及び実施に取り組む必要があると考えるがどうか。

**【市長】** 水田の土壤診断については、JA花巻が主体となりアストも支援しながら現在で約700件ほどの土を各農家から提供して頂いており、その検査結果に基づいた適正な施肥設計を行い指導していく予定である。また、園芸作物についても普及サブセンターと連携しながら土壤診断、施肥設計をおこない堆肥活用の推進と経費の削減に努めていく。これまでの農業は、化学肥料に依存してきた経緯があり堆肥の効果、活用について周知されていないところもあることから、集落営農組織等と連携のうえ、品目ごとの試験ほ場を設定しながら、堆肥と化学肥料との適切な組み合わせモデルを検討し、その結果を農家にPRしながら、地域資源を活用した循環型農業の推進、土づくりの強化等、遠野型農業の推進について、農家との共通認識を図りながら、消費者に訴える農産物の生産を進めていきたい。

### 【その他の質問】

○遠野市わらすっこ条例の概要と意義について。

この条例によって子供主体のまちづくりがどのように進められていくのか。市としては具体的に何を行っていくのかについて。

○第四次高齢者福祉計画について。

## 広域観光振興策を示せ



石橋 達八 議員

**【質問】** この度、近代産業遺産として宮守町の「めがね橋」「トンネル」計4件が経済産業省から認定されたが、以前には国の重要文化的景観として荒川高原牧場、伝統的建造物として国重要文化財の南部曲り家千葉家、商家仙臺家などが認定されている。遠野の先人が築いてきた生活・文化が時を経て輝き始めた。歴史的

景観や風致を活用した近隣市町村との連携による新たな広域観光振興策を示せ。

**【市長】** 観光協会等、各関係団体と連携し、遠野の魅力発信に取組、観光振興と交流人口の拡大を図っていく。具体的には遠野の「どぶろく」は構造改革第1号、花巻の「早池峰神楽」は国の無形文化財第1号、そして平泉の「金色堂」は国宝第1号となっていることから「日本のナンバーワンな旅物語」を21年度から商品化していく。

**【質問】** 高齢者や障害をもたれる方の災害時における援護体制、避難支援策を急ぐべきだ。

**【市長】** 自主防災組織の結成を加速させ、地域の特性を生かし地域の見守り体制を全ての地区に波及させたい。「避難支援プラン全体計画」は消防本部、健康福祉部等の関係部局の連携のもと、平成21年度をめどに策定に取り組む。

**【質問】** 23年7月にアナログ放送が終了する。地上デジタル放送の円滑な移行と課題にどう取組むか。

**【市長】** ①難視聴地域の対策は、遠野テレビへの加入促進を進めたい。②高齢者、障害者への説明と周知については「とびあ」での地デジ体験コーナー、とおの広報での特集等で。③公共施設の受信障害物には、市が責任をもって対応する。④振込め事件やアナログテレビの廃棄については被害防止策や不法投棄防止の監視パトロールを行う。



▲堆肥のさらなる有効活用を



▲新たな観光振興策を  
(新たな観光のスポットとして注目を集めるめがね橋)